

日本を代表する建築家、永山祐子さんにご講演いただきました

9月17日（水）の5・6時間目に、建築家永山祐子氏をお招きし、ご講演いただきました。

建築を単なる「ものづくり」ではなく、社会や環境、そして人々の生活に深く関わる創造的な活動として捉えられており、その哲学と実践を伝えていただきました。

最大級の仕事は、ドバイ万博で建設された日本館を、大阪・関西万博で「ウーマンズ・パビリオン」として再利用するプロジェクトだったそうです。

建設時に「リユース」を前提としたボールジョイント工法やパラメトリックデザインといった先進技術が導入されており、解体後の部材を一つひとつQRコードで管理する徹底した取り組みが、この前代未聞の挑戦を可能にしたということです。また、リユースした鉄骨材を使うことで二酸化炭素排出量を半減させるなど、建築におけるサステナビリティの重要性を力説されました。

また、他のプロジェクトも紹介されました。パナソニックグループパビリオンの「ノモノの国」では、未来を担う子どもたちに向け、型にはまらない有機的なデザインを追究し、3D フォーミングのような特殊な技術を駆使して、まるで生き物のようなユニークな建築が実現したということです。

さらに、新宿歌舞伎町の超高層ビルや名古屋のカフェ、小さな個人住宅の事例を通じて、それぞれの場所やクライアントの特性を深く読み解き、デザインに落とし込む過程をお話いただきました。歌舞伎町のビルは、オフィスのないエンターテイメントに特化した空間づくりという大胆な挑戦であり、地域の歴史である「水」と結びつけ、「噴水」をモチーフにした柔らかい外観で表現したということです。また、小さな住宅では、膜の天井や家の中の庭などを工夫し、光や風といった自然の要素を巧みに取り込んだ豊かで心地よい空間を生み出したということです。

永山氏の建築は、スケールの大小に関わらず、技術とデザイン、そして人々の体験を深く結びつけることで、従来の建築の概念を超えた新たな価値の創造であることが、講演全体から伝わってきました。



講演会会場の模様



3年建築科代表志波さんから謝辞がありました。



集英社の担当者様から永山祐子さんの著書含め、１００冊の本を寄贈していただきました。（寄贈元は公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会）



校長室にて 左：建築科講師 森 哲郎（一級建築士）右：永山祐子さん（建築家）

この講演会の主催・後援は次のとおりです。

主催：株式会社 佐賀新聞社・公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会
 後援：文部科学省・佐賀県教育委員会・株式会社 集英社
 ・佐賀県高等学校PTA連合会